

「台風二十三号について」

盛岡 拓海

僕の家は、台風二十三号の被害にあいません。その日は、夕食を食へようとした時に、消防団の人達が、「避難して下さい」と言っ
てこられました。その時は、とてもひどく
りしました。外へ出て見ると、もうひざまで
水がきていて、家の事が心配になりました。
非難して三時間が経つても心配は、どんどん
大きくなるばかりでした。そして「ヤ」と家に
帰って見たら、部屋、廊下、一階のすべてが
泥まみれでした。片付けを、続けて五時間以
上が経ちや」と寝られるようになったのは、
朝の三、四時頃でした。

次の日、お父さんの友達、僕の友達、先生
方が手伝いに来てくれました。そのお陰で作
業は、とても早く進みとてうれしかったです。
その後、何日も何日も作業を続け、やっ
と普通に住めるようになりました。その時は、
家族の皆は、疲れ果てていました。

でも、いろいろな人達のお陰で、家に住む
こともでき、今でもとても感謝しています。
台風で失った物はとてもたくさんありました。
が、台風で得た物もたくさんありました。人
への感謝の気持ち、普通に生活できることの
ありがたさ、家族のありがたみ、など全ては
台風から得た物でした。

でも、台風のせいで死者も出て、たくさん
の生物達も息絶え、森は荒れ、普通に生活で
きることさえも出来ない人達もたくさんいま

した。だから台風はもう来てほしくありません。
人、そのためには、世界中の人達皆が協力し
なければならぬと思います。人間は自然破
壊や環境汚染など、いろいろなことをしてい
ます。それを^{改善}すれば、台風などの自然災害は
来なくなると思います。

だから、僕は未来が悪くならないためにも、
出来る限りのことをしようと思います。